

明石西高校の地元 二見町の歴史

「Akashi Map」 明石観光協会発行(2019年3月現在)



上の地図は明石観光協会発行の魚住～二見周辺の略地図です。山陽電車の西二見駅の直ぐ東の学校が明石西高校。池の大部分を埋め昭和51年に開校しました。明石西高校の住所は、明石市二見町西二見で、二見町にあります。明石西高校の地元は二見町をさし、二見町には、4つの地域があります。また、731(天平3)年の『住吉大社神代記』に「歌見江尻」、平安時代の『今昔物語』に「歌見の浦」という記載があり、二見は「歌見(ウタミ)」と呼ばれたようです。

現在の二見町の4つの地域の1つは、明石西高校が所在する西二見。山陽電車の西二見駅の西は加古郡播磨町となるので、播磨町に接する明石市の西端が西二見となります。西二見は、江戸時代の西二見村の範囲で、江戸時代後期には1,585石ある大きな村でした。当時は農業と漁業で生計をたてていた住民が多かったようです。

2つ目の地域は東二見です。東二見は、西二見に接し、御厨(みくりや)神社から東、魚住の薬師院(ぼたん寺)の西当たりまでの地域です。江戸時代は東二見村で、江戸時代後期には1,176石の大きな村で、半農半漁の村でした。山陽電車の東二見駅から南北に延びる通りは二見商店街で、南側には二見市民センターや二見小学校があります。さらに南へ二見港の方へ向かうと観音寺、長徳寺、徳源寺、瑞応寺といった大きな寺が集まり、都市景観形成重要建築物に指定された、江戸時代に回船問屋として栄えた増本邸、肥料問屋で栄えた尾上邸などがあります。



次に南二見です。西二見、東二見の南、海を埋め立て造成された人工島がありますが、その大部分が明石市二見町南二見です。この人工島の西側の一部は播磨町東新島。人工島は1970(昭和45)年に造成に着手し、1975年に造成が終わりました。以降二見臨海工業団地にはアサヒ飲料などの工場や明石海浜公園が作られていきました。

最後に、二見町の4つ目の地域は福里です。西二見と東二見の北部と接しJR神戸線付近の地域です。江戸時代後期は407石の農業を中心とした農村でした。近くの魚住町清水に「オクワハン」が行われる清水神社があります。

【二見浦築港記念碑】

江戸時代の西二見、東二見、福里村は、水が豊富とはいえない環境で、綿花栽培などの畑作も行われていました。綿花栽培には、肥料として干鰯(ほしか)が使われ、綿花や干鰯の出荷のためにも二見港の整備が望まれていました。江戸時代末期、肥料問屋の増本忠兵衛が庄屋等を説き伏せ、民衆の力で整備することを決意し、1855(安政2)年に工事に着手、4年後に完成させました。その記念碑が、東二見の海岸から、人工島に渡る橋の近くに、「波切不動明王」とともに建っています。



(参考文献) 『ふるさと二見の歴史』(大西昌一 2005年4月) 『あかいしGEIBUN 12』(明石市芸術文化センター 1984年7月)